

新しい時代！これからのあきる野の教育

～リニューアルした教育広報の発行に寄せて～

これからの社会に求められる国際理解教育



あきる野市教育委員会
教育長職務代理者
田野倉 美保

元号が「令和」となり、新しい時代が幕を開けました。これからは、経済のグローバル化等により在住外国人の数が更に増加し、国籍や民族が異なる人々で構成される多文化共生社会の到来が予想されています。

後、地域住民による国際交流は更に重要となってくると考えています。

あきる野市は、豊かな自然に恵まれ、長い歴史と郷土の伝統・文化が大切に受け継がれています。教育大綱に掲げる「ふるさとを誇りに思う人づくり」を推進する一方、これからは外国の文化や習慣にも興味・関心を持ち、理解を更に深めていかなければなりません。

このような社会が活気のある住みよいものになるためには、地域に住む人同士が互いの文化の違いを認め、異なる価値観や考え方を持つ人を理解し合い、尊重するとともに、積極的にコミュニケーションを図ることが大切です。今

地域に教育フィールドを広げよう



あきる野市教育委員会
委員
丹治 充

元号が「令和」に改まる中、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、人工知能の進化等、加速的に変化する社会を踏まえ、次代を担う子ども達の育成に向けた新学習指導要領の実施を迎えています。

学校は社会に開かれた存在であると同時に、教育の営みを通じてよりよい社会を実現するという役割を担っています。また、社会との連携・協働により、新時代に向け、子どもたちの資質・能力を育成することが求められています。

「待つ」という時間の感覚



あきる野市教育委員会
委員
小西 フミ子

以前、脳性麻痺の青年たちと川遊びをし、我が家に泊まってもらう機会がありました。夕食を作るため川遊びを一人切り上げ、車で自宅に向かいましたが、その途中、封筒を手にした車椅子の青年が投函口に手が届かなく、ポストの前で苦戦している姿を見かけました。

ちは産まれた時から誰かの助けを得て暮らしているから、待つのは当たり前、イライラなんてしないのさ」と笑って話していました。

急にできたこともあり、その場は通り過ぎてしまいましたが、後で手助けしなかったことを後悔しました。そのことを夕食の際に青年達に話したところ「大丈夫、絶対に誰かが助けてくれる。僕たち

新時代の教育広報に期待



あきる野市教育委員会
委員
坂谷 充孝

30年間続いた平成から「令和」に改元を迎えた本年、15年間発行されてきたあきる野の教育広報が刷新されることとなりました。

ICTやAI技術などが更に発展する社会でたくましく生きていくには、知識や技能に加え、自ら考え、判断し表現する力や多様性の受容、学びに向かう力が重要です。

今、求められる社会教育委員の役割



あきる野市
社会教育委員の会議
議長
阿部 良則

私たち社会教育委員は、地域の課題や市民の声を社会教育行政に反映させる役割を担い、その職務を果たせるように調査研究に取り組んでいます。

である家庭や地域の教育力の低下等が問題となり、社会で深刻化していることがあります。これらの問題は、前期の社会教育委員の会議の提言書として教育委員会に提出しています。

私たちが社会教育委員は、地域の課題や市民の声を社会教育行政に反映させる役割を担い、その職務を果たせるように調査研究に取り組んでいます。

生涯学習社会の実現を目指して



あきる野市寿大学
学長
宮崎 慶一

寿大学は、昭和48年に開講し、98人の受講生で始まりました。寿大学は、60歳以上の市民を対象とした生涯学習推進事業で、文学、歴史、科学、芸術、健康生活、一般教養等の講義や行事の講座を通して、高齢者の学び意欲や知識の向上、地域社会への参加、受講生の相互交流を図ることを目的として実施しています。

現在、秋川校は秋川キララホールで750人が、五日市校は五日市地域交流センターまほろばホールで122人が、5月から12月ま